

JAPAN HERITAGE
日本遺産

さいくうあと通信

発行：明和町 斎宮跡・文化観光課 (三重県多気郡明和町大字斎宮2811)
電話：0596-63-5315 E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp



斎宮のハナショウブ群落 スケッチフェスタの展示しています

国指定天然記念物「斎宮のハナショウブ群落」をテーマにしたスケッチフェスタを初開催しました。江戸時代、「紫の雲がたなびくよう」と言われ、「どんど花」の愛称で親しまれてきた町の花でもあるノハナショウブを子どもたちの自由な表現でスケッチしてもらいました。ノハナショウブの開花に合わせて6月より募集を行いました。本企画には、町内の園児から中学生までの児童・生徒より387点の応募をいただきました。町の花であるノハナショウブをテーマにした写生を通して、ノハナショウブやその風景に向き合った多彩な表現が寄せられています。

ご応募いただいた作品を対象とした作品展を、下記のとおり開催しております。会場となるイオンモール明和めいホールでは、応募作品を前期・後期に分けて展示いたします。皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。

スケッチフェスタ作品展 概要

- ・会期：令和7年7月12日(土)～8月11日(月)
- ・会場：イオンモール明和2階 めいホール
- ・展示：前期・後期の2期制(会期中に作品の入れ替え)
- ・応募数：387点
- ・応募校：上御糸小学校1.2.5.6年、斎宮小学校5.6年、
明和中学校美術部、第2ゆたか保育園、個人応募



< 展示状況 > * 前期





< 斎宮のハナショウブ群落 関連史料紹介 >

「斎宮のハナショウブ群落」に関わる資料が、松阪市の本居宣長記念館に寄託されています。資料は「本居大平文章二歌」で、製作された年代は不明ですが、本居宣長（1730－1801）の養子である本居大平（1756－1833）が、斎宮のハナショウブ群落周辺と思われるノハナショウブの様子について文章と歌を記した掛け軸です。掛け軸の下部には、ノハナショウブの姿が描かれています。

掛け軸に記された賛と歌は次のとおりです。

此花の絵は、伊勢国多気郡に**いつきの宮の名残**、名におふ里のあたり、道の東なる野澤に紫のいろふかくさく花になんある、そのさま、かきつばたに似たれども、ややちひさく、茎もこよなうほそくて、五月のころなん咲いづれば、今の世に花あやめ、花そうふなどいひてもてはやすなる花のたぐひにぞ有ける、その里人は田うゑ花、**どんど花**とていふなる、ある人のこれなん、花かつみなるべきといひたりしより、事好む人々はみな、さなんいふめる

花あやめ あやめもしらぬ 草の名を かつ見てたれか それといひけん 大平

【意訳】

この絵は、伊勢国多気郡の、いつきの宮の名前をもつ里のあたり、道の東にある野原に咲いている深い紫色の花である、その様子はカキツバタに似ているけれど、少し小さく、茎もたいそう細くて、五月頃に咲き始めるので、現在では「花あやめ」や「花しょうぶ」といって人気の花の類いである、その里の人は「田植え花」とか「どんど花」と言うとのことである、ある人が「これが花かつみに違いない」と言ったことから、好事家たちは皆そのように呼んでいるようである。

今この花を表す「花あやめ」という名は、よく知らない植物を、少し見ただけの誰かが（それと思って）「あやめ」と呼んだのだろう。

* 内容について、本居宣長記念館の井田学芸員にご教示いただきました。

資料からは、江戸時代後期頃にはノハナショウブが斎宮跡の東側にたくさん自生していたことや、当時から「**どんど花**」と呼ばれていたことが分かります。いまでも地元では「どんど花」の愛称で呼んでいますが、これからも地域固有の愛称とともに群落の保全をはかっていきたいですね。

